



杉並区

29. 7. 26
杉並区広報課

JAが子ども食堂を応援

26日、JA東京中央による、区内の7つの子ども食堂への食材提供の事業が始まりました。この事業は、区内で運営されている子ども食堂を応援しようとするもので、それぞれの子ども食堂の開催日（月1回程度）に合わせて、杉並産の新鮮野菜を提供するものです。

杉並区は、住宅地のイメージが強いですが、平成29年4月1日現在、約44haの農地が残っています。農家戸数は142戸です。こうした区内で生産される杉並野菜をもっと多くの人に知ってもらいたいと、JA東京中央では、区内の病院などに杉並野菜を使ったメニューの提供を働きかけてきました。また、区内のイベントや区役所などで新鮮な野菜の直売などを行って、その美味しさを広めようとして取り組んでいます。

現在、全国で展開されている子ども食堂は、貧困家庭の子どもへの対策としてスタートをしましたが、最近では核家族化が進み、地域での関係性の希薄化により、子どもだけでなく高齢者も孤食を強いられている現状を何とかしたいとの思いから、地域の団体や個人が取り組んでいます。区内では、9カ所でそれぞれ月に1・2回実施されています。どの子ども食堂も、利用者の負担は子どもが0～300円、大人が0円～500円という低料金になっています。子ども食堂は、その思いに共感した人の定期的な寄付やコメや野菜などの提供と、ボランティアスタッフの協力によって運営されています。

JA東京中央から子ども食堂への新鮮野菜の提供は、これまでも2カ所の子ども食堂に行われてきましたが、今年6月、区の社会福祉協議会がサポートしている「杉並子ども食堂ネットワーク連絡会」の会合で、JA東京中央の職員から子ども食堂に新鮮野菜の提供を呼びかけたところ、新たに5カ所の子ども食堂が提供を希望しました。それ以降、担当者間で提供方法や数量などの調整を行ってきました。新鮮野菜の提供は、1回1カ所あたり1,500円相当になります。



26日午後2時30分、JA東京中央杉並グリーンセンター（阿佐谷南3-13-2）では、農協職員が杉並産のキュウリ、トマト、ナス、オクラを箱に詰め込みました。今日は、昨年からの提供をしている和田1丁目のはっぴー食堂です。この食堂は、子どもから高齢者を対象とした多世代交流を目的にしています。利用者の負担は、子どもが無料。大人は300円です。はっぴー食堂の小松崎さんは、「最初は、商品にならない不揃いな物でもと依頼したのに、子どもたちのためだからと飛び切り立派な野菜を提供してもらい、とても感謝しています。利用者にも、杉並産の野菜だと伝えると、区内で野菜が育てられていることと、その味の良さにみんな驚いています。」と話していました。ハッピー食堂は、明後日28日が開催日で、その日のメニューは、夏野菜カレーとサラダを考えているそうです。

【問い合わせ先】 JA東京中央杉並グリーンセンター：TEL：5349-8791